

各位

全 3 ページ  
登録速報(2021-227)  
2021年10月27日  
クミアイ化学工業株式会社  
企画普及部普及課

## 登 録 速 報

下記の通り適用拡大登録となりましたので、ご連絡します。

適用拡大登録年月日：2021年10月27日

### 記

#### 1. 農薬の登録番号及び名称

登録番号：第 23458 号

名 称：エバーゴルフオルテ箱粒剤（バイエルクロップサイエンス(株)登録）

#### 2. 変更の内容

農薬登録申請書第7項を次のとおり変更する。

・使用時期「移植3日前～移植当日」を追加し、使用時期「移植当日」に使用量「高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当り50~100g)」を追加し、別紙1のとおりとする。

#### 3. 当該変更に伴い、農薬登録申請書の記載事項に変更を生ずるときは、その旨及び内容

農薬登録申請書第8項に(2)を以下のとおり追加し、以降の番号を繰り下げ、別紙2のとおりとする。

#### 【追加】

(2) 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。

## 【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ミタクロプリトを含む農薬の総使用回数	イソシアニルを含む農薬の総使用回数	ペンフルフェンを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミスゾウムシ イネトオイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病	育苗箱 (30×60× 3cm、使用土 壤約5L) 1箱当り50g	は種前	1回	育苗箱の 床土又は 覆土に均 一に 混和する。	3回以内 (移植時まで の処理は 1回以内、 本田での 散布は 2回以内)	3回以内 (移植時 までの 処理は 1回以内、 本田では 2回以内)	1回
	白菜枯病		は種時 (覆土前) ～ 移植当日		育苗箱の 上から 均一に 散布す る。			
	疑似紋枯症 (褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症 (赤色菌核病菌) 内穎褐変病 穂枯れ (ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病	<u>高密度に は種する 場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60 × 3cm、使 用土壌約 5L)1箱 当り 50～100g)</u>	移植当日					
	白菜枯病 イネミスゾウムシ イネトオイムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ いもち病 紋枯病		移植3日 前 ～ 移植当日					

【変更後】

- (1) 本剤を床土または覆土に混和処理する場合、処理後速やかに使用すること。  
また本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- (2) 育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約 5L）1 箱当りに乾糶として 200 から 300g 程度を高密度には種する場合は、10a 当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が 1kg/10a までとなるよう、育苗箱 1 箱当りの薬量を 50 から 100g までの範囲で調整すること。
- (3) 極端な低温での育苗条件では生育抑制を生じるおそれがあるので、温度管理に注意すること。
- (4) 梅雨明け後の高温時の晩期栽培では、は種前及びは種時の処理により薬害が生じるおそれがあるので、これらの時期での使用をさけること。
- (5) 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (6) 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じやすいので、代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出しないように注意すること。
- (7) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。また、本剤を処理した稲苗を移植した水田ではいぐさを栽培しないこと。
- (8) きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。  
また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさけること。
- (9) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以上